



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
FAX:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 「進歩」がすべてではない

### 同感の世界こそ悲しみを和らげる力をもつ



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
この新年は、例年のように「おめでと  
う」という言葉を控えよう、と思いま  
す。勿論、東日本大震災の被災者の方々の  
悲しみ、苦しみに寄り添いたいという考  
えによるものです。しかし、昨今の政治  
行政の遅滞、混迷を思うとその復旧、  
復興は前途遠慮です。それと同時に「苦  
しみに寄り添う」という一見美しい言葉  
もどれほど内実を伴うものなのか、被  
災者の心の溝を完全に埋め尽くせるも  
のではないでしょう。

先日、法事の席で遠方からお参りの  
親戚の方がお経の本を見ながら、「お経  
には、『進歩』を意味するような言葉が  
出てきませんね」と言われた。その発言  
には、「仏教は前向きな生き方を説か  
ない」という批判が込められていると直  
感しました。そこで、「仏教が前向きな  
生き方を説いていないと私は思わない  
けれど、もっと奥深い意味を後の法話で  
お話させていただくのでよく聞いてく  
ださい」と引き取り、改めて次のよう  
なお話をさせていただきました。  
昨年三月十一日、東日本でM9の大

地震が発生したとき、評論家の寺島実  
郎さんは新幹線の乗客であった。取り  
急ぎ講演先に断りの連絡をして、カバ  
ンの中に持っていた親鸞聖人に関する  
本を取り出して読んだという。五月に  
東本願寺で「今を生きる親鸞」という講  
演の予定があったために持参していた。  
まったく予想もしない大地震・巨大津  
波の続報が伝えられる事態を前に、こ  
の世の無常をいやがうえにも考えさせ  
られ、『歎異抄』の有名な言葉「善人な  
おもて往生を遂ぐ、いわんや悪人をや」  
という親鸞の言葉が胸に響いた。人の  
世における善悪など大きな自然の猛威  
の前では何の役にも立たない。それを  
全て救い取ろうという仏の言葉の前に  
「不思議な落ち着き」を感じることで  
きた、という講演で聞いた寺島さんの  
話を紹介しました。「不思議な落ち着  
き」とは何でしょうか？  
愛し児を亡くした夫婦の元に松尾芭  
蕉から一通の書状が届いたが、中には  
全く何の言葉も書かれていなかった。  
「何故だろう？」と思いあぐねていたら  
ふと気付いた。「悲しみのどん底にある

あなた方に、どんな慰めを言っても言い  
尽くせません」という芭蕉の同悲同感の  
心に気付いた夫婦は手をとって泣いた、  
という。それを聞いた芭蕉は、

「埋もれ火も消ゆや涙のにじむ音」と  
いう句を贈った。悲嘆の夫婦が火鉢を  
囲んで流す涙が炭火ににじんだという  
情景を詠んだ一句。『沈黙は金』、言葉  
にならぬ言葉もあるのです。涙の中に  
大きな慈悲が伝われば、自然に立ち上  
がる力が湧いてくる。「人間のはから  
いを超えた深い大慈悲の中の我ら」とい  
う同感の世界こそ悲しみを癒し、和らげ  
る力を持つのです。温かい絆再生の新  
年になりたいと願って止みません。

### ☆行事ご案内☆

## ☆「報恩講」(講師・鎌田宗雲先生・滋賀)

1月11日(水)午後1時半・夜6時半・琴生演奏

12日(木)午前10時

※お非時(食事接待)は11日午前11時より12時まで

※次回からは「報恩講」が11月2日・3日に変更になります。

平成24年度は11月にも報恩講を勤めます。よろしく!

◇「除夜の鐘」12/31 夜11時45分

◇「元旦会」1/1 午前9時より

◇「報恩講」1/11(水)午前11時お非時(食事)午後1時半  
夜6時半 琴生演奏、12日(木)午前10時、

◇「報恩講お朝事」13日、14日、14日、16日の連続4日間、  
毎朝7時より正信偈と説教、茶話会

◇キッズサンガ「除夜の鐘」と「元旦会」(お年玉付き)

毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 来年1/23(月)、2/14(火)、3/  
12(月) いずれも午後1時半練習 智積西勝寺様で

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評

### ☆4月21日(土)午後1時半「初参式」(三全仏婦主催)

赤ちゃんや幼児を大募集中!地域の皆で子供の成長を祝福。参加  
費千円(写真・記念冊子・数珠、赤飯)是非この機会に!

☆一縁会テレホン法話集14冊目の新刊本『心おきなく迷って  
いける』発売中!059-354-1454へ3分間の電話法話!



(左) 元教え子夫妻、初参式

二人の若嫁も揃って初参加



H23, 12, 3 『お内仏報恩講』

45人の参り衆で庫裡は満員



坊守スケッチ

小説『親鸞』(激動篇)益々面白い!



中日新聞に連載の五木寛之作・小説『親鸞』(激動篇)を、毎朝散歩に行く前に欠かさず読んでいます。最近佳境に入って目が放せない。何が面白いのかといえば、難しい仏教のお話が、ドラマ仕立てでリアリティをもつて読者に迫ってくる。歴史の授業で、年代と歴史的事項をいくらか暗記しても、すぐに忘れてしまいが、骨肉相争うような人間ドラマとして教えてもらおうと、身近な出来事して印象に残る。これと同様のことが難しい仏教のお話にも言える。お説教で仏教用語の解説をいくらかしてもらっても、何か上の空。しかし五木氏はそれを小説の中で見事な場面設定をして読者を惹きつける。中でも『出会いと別れ』の章が印象的だ。親鸞様が関東の弟子真仏と頼重房を前に念仏の教えを説いている。

「法然上人から伝えられた専修念仏の信心は決して変わらぬが、念仏する心が変わっていく。いかに確かな信を得ようとも、人の心は愚かで弱いもの。私は口では立派なことを言っても、迷うことはしばしば。だからそこに念仏があるのではないか。迷いともすれば、くじけそうになる心を、励まし慰めて、真の信心に連れ戻してくださる他力の声、それが念仏かもしれない」この会話を陰で聞いていたのが、平次郎と後の唯円。思わず飛び出して直接教えを請う。「念仏は自力の行ではなく、阿弥陀様から頂いたものだ」と聞いているが、その意味が分かりません。「嵐で船が難破したとする。逆巻く夜の海で溺れそうになっている時に、どこからか声が聞こえた。救いに来たぞ!どこにいたのだとその声は呼んでいる。平次郎どのならどう応える。」「ここにいますぞ!おーいここに。助けくれと声をあげます」「そうだ、真つ暗な海にきこえてくるその声こそ、阿弥陀如来が我等に呼びかける声。その声に応じて、ここにおります、阿弥陀様!と応える喜びの声が南無阿弥陀仏の念仏ではあるまいか。それが頂いた念仏というものだ」「阿弥陀如来の声は、誰でもいつでも聞こえるものですか?」「阿弥陀様を固く信じるかどうかにかかっている。目に見えない阿弥陀様を信じるのは誠に難しい。一旦信を得てもまた揺らぐ。見失いそうになるけど念仏が信を支えてくれる。」「信を得る為にはどうしたらいいのですか?」「自分自身を見つめることが大事だ。わが身の愚かさ、弱さ、頼りなさ、とことん見つめて納得すること、それが出来ると自ずと見えないう大きな力に

身をゆだねる気持ちがおきてくるのではあるまいか

この小説を読んで、阿弥陀様から賜った念仏の意味が分かり、わが心を映し出す『心の鏡』を持つことの大切さに改めて気付かされました。

☆寄稿

四日市市川崎孝一  
☆二縁町 散策すればおりんちゃん 緩りと歩む 門前エリア

☆師等は北 吾は南へ ドラマごと 午後のゆかりは ホームの別れ

☆孕み箸 掌に馴染まねど運ぶ都度 京の料理の 味覚はんなり

四日市市たか子  
☆はひふへほ 毎日感謝ありがとう

(注)『幸せのはひふへほ』  
「は」は 半分でいい  
「ひ」は 人並みでいい  
「ふ」は 普通でいい  
「へ」は 平凡でいい  
「ほ」は 程ほどでいい

多くの人から反響の声。幸せに近づく最良の方法。「少欲知足」のすすめ!

☆ホットニュース☆

☆12/3(土)夜お内仏報恩講に長男嫁、次男婚約者が揃ってデビュー。45人の皆さんと賑やかなひととき。

☆12/23(祝)午前11時次男本堂で挙式、お披露目の菓子配布。

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可、毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設3年4か月で5万7千突破1日平均80訪問

平成24年度の主な行事予定

◇「元旦会」午前9時より 正信偈

◇「報恩講」1月11日(水)午後1時半・夜7時・12日(木)午前10時

(講師) 鎌田宗雲師 (滋賀)

◇「報恩講お朝事」13日より16日までの連続4日間 毎朝7時より正信偈・説教、茶話会

◇「春季永代経」3月17(土)18(日)尾崎裕正師(奈良)

◇4月21日(土)午後「初参式・降誕会」加藤幸子師☆午後1時半三全仏婦主催の初参式に赤ちゃん及び幼児を大募集中心!参加費千円

◇5月20日(日)午前・総会と午後「公開法座」講師 石川欣也師

◇「秋季永代経」8月18(土)・19(日) 加藤正人師(桑名)

◇「報恩講」11月2日午後と夜・3日午前・午後仏婦大島信隆師(岸和田)

今年から日が変わりますので!注意!

◇「秋勧進」11月23日午前

◇「お内仏報恩講」12月1日(土)夜

☆カンパ有難う☆

木村たか子様・柴田美津代様・他匿名様よりお志・切手有難うございました

☆編集子より☆

「善正寺だより」二一七号をお届けします。◇昨年は長男、次男の婚礼に際し、皆様方から温かい祝福を頂き、有難うございました。世代交代の始まりですが、未永くお育て頂きますようお願い申し上げます。この一年、一日一日に生きがい、価値を見出して歩みたい。

明けましておめでとうございませう。我が家のお正月は急に娘  
が二人増えたような華やいた気分に包まれました。しかし世の  
中を見渡せば喜んでばかりおられませんか。昨年の東北地震  
で家族をなくされた方、原発被害に苦しむ人、仮設住  
宅で過ごす方々は、辛く悲しい年明けとなり、心よりお  
見舞い申し上げます。小林一茶の「めでたさも中ぐらいたる  
おらが春」という俳句が浮かびました。お目出たい正月に  
へん曲がりな句だと思われからですが、一茶の苦難の多い  
生涯を振り返れば理解できます。三歳で生母と死別  
、継母に馴染めず、十五歳で江戸へ奉公、三十九歳で  
帰郷し一ヶ月後実父が病死、その後継母と異母弟  
らと相手に十年以上遺産相続問題、五十二歳で若き  
妻を娶り四人の子供を授かるが次々に夭逝、妻も死別、  
再々婚をして一子を授かるが、一茶の没後に娘が誕生、  
悲惨な人生の極めつけは、七くなる直前に大火に遇い  
土蔵の中で病死、この俳句は晩年家族を次々になく  
した時に作られたものです。江戸時代の三大俳人の一人  
一茶からは想像できない人生でした。幸せも不幸せも  
ほんのつかの間のでき事です。幸せに浮かれることなく不  
幸せに悲観することなく、今年も精進いたします。

一月は善正寺の報恩講、11日午後一夜(琴参)、12日午前  
法話は鎌田宗雲先生、皆様お誘い合わせてお  
参り下さいませ。今年も一年よろしくお願いいたします。

平成二十四年一月 合掌 善正寺坊守輝